

令和2年度  
(2020年度)

## 事業報告書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

公益財団法人ユニジャパン

# 令和2年度 事業報告

## I. [事業の状況]

### 1. 国際映画祭事業

- 名称： 第33回東京国際映画祭
- 主催： 公益財団法人ユニジャパン  
(第33回東京国際映画祭実行委員会)
- 共催： 経済産業省  
国際交流基金アジアセンター (アジア映画交流事業)  
東京都 (TOKYO プレミア 2020 部門、ユース部門)
- 期間： 令和2年10月31日 (土) ~ 令和2年11月9日 (月)
- 企画： TOKYO プレミア 2020、特別招待作品、特別上映、ワールド・フォーカス、  
JAPAN NOW、日本映画クラシックス、ユース、ジャパニーズ・アニメーション、  
TIFF マスタークラス、TIFF ティーンズ映画教室 2020、トークシリーズ「アジア  
交流ラウンジ」、復活！新作映画イッキに見せます！ in 東京国際映画祭、  
みなとシネマフェスティバル、TIFFCOM2020、第17回文化庁映画週間、  
第21回東京フィルメックス 他
- 会場： 六本木ヒルズ、EXシアター六本木 (以上、港区)、東京ミッドタウン日比谷 日  
比谷ステップ広場、東京国際フォーラムホール C をメイン会場とし、その他都  
内劇場及び施設・ホールを使用
- 後援： 総務省／外務省／観光庁／港区／(独)日本貿易振興機構／国立映画アーカイブ  
／(公財)港区スポーツふれあい文化健康財団／(一社)日本経済団体連合会／  
東京商工会議所／(一社)日本映画製作者連盟／(一社)映画産業団体連合会／  
(一社)外国映画輸入配給協会／モーション・ピクチャー・アソシエーション (MPA)  
／全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／  
NPO 法人映像産業振興機構／(一社)日本映像ソフト協会／  
(公財)角川文化振興財団／(一財)デジタルコンテンツ協会／  
(一社)デジタルメディア協会
- 支援： 文化庁
- プレミアムスポンサー： 日本コカ・コーラ株式会社／東京ミッドタウンマネジメント株式会社  
／一般社団法人日比谷エリアマネジメント／
- スポンサー： 大和証券グループ／株式会社 WOWOW／株式会社スター・チャンネル  
／株式会社アイム・ユニバース／アメリカン航空
- コーポレートパートナー： 松竹株式会社／東宝株式会社／東映株式会社／株式会社 KADOKAWA／  
日活株式会社／森ビル株式会社／TOHO シネマズ株式会社／  
一般社団法人映画演劇文化協会

メディアパートナー： 株式会社 J-WAVE／松竹ブロードキャスティング株式会社／  
日本映画専門チャンネル／ウォール・ストリート・ジャーナル／  
ヤフー株式会社／LINE 株式会社／株式会社 つみき／  
株式会社ムービーウォーカー／株式会社 U-NEXT

フェスティバルサポーター：株式会社 IMAGICA Lab.／株式会社クララオンライン／  
株式会社レントシーバー／ゲッティ イメージズ ジャパン株式会社  
／ツタヤ クリエイターズ プログラム／株式会社クオラス

## 【開催概要】

第33回東京国際映画祭は、令和2年10月31日(土)から11月9日(月)まで10日間、六本木ヒルズ、及び、EX シアター六本木をメイン会場として、その他都内の会場を使用して開催された。

安藤裕康チェアマン、久松猛朗フェスティバルディレクター体制2年目の本年は、新型コロナウイルスの世界的な流行という未曾有の事態の中での取り組みとなり、何がどこまで実施可能なのか、慎重な検討を重ねての準備となった。官公庁ほか公的な支援は例年並み、或いは、それ以上を獲得する事が出来たものの、民間協賛社による協賛金は大幅にダウンしたため、全体予算は大きく減額した中での取り組みとなった。その一方、国際映画祭の本分である海外映画関係者、プレス等の招聘が大変困難であることが徐々に判明してきたため、早期の段階で国際審査員を必要とするコンペティティブ部門3部門の実施を断念し、その3部門を統合した形での本年度限りの特別部門TOKYO プレミア 2020 を新設し、観客賞のみ実施した。また、本年度より作品選定にコミッティー制を導入、外部識者の視点も入れた形での選定とした。

上映会場を使つての映画上映・映画鑑賞が東京国際映画祭の主な取り組みであり、新型コロナウイルス対策を万全に行うため、東京都、港区、会場であるTOHOシネマズ等のガイドラインを参考に独自のガイドラインを作成、検温、消毒等の徹底を行った。また、不特定多数の集客や大人数の人的交流を避けるため、従来のオープニングカーペット、オープニングパーティー等は中止とした。その代わりに来日・来場できないゲストをオンラインの形で、Q&A やトークイベントに参加いただく形態を取った。

上映間の混雑を避け、消毒を徹底するため、上映回数、上映本数も減じる事となり、リアルイベントはほぼ実施できなかったため、実動員数は大幅に減少したものの、オンラインを活用した様々な取り組みで、こちらは大きく動員数を獲得することが出来た。

その結果、今映画祭の自主企画は36企画(うちリアル22企画、オンライン14企画)で、リアルな動員数は48,205人(前年対比22.6%)、オンライン動員数は1,090,277人となった。上映作品数は138本で前年対比45本減。

オープニングセレモニーは、10月31日(土)に東京国際フォーラムホールCにて開催された。冒頭、オーケストラによる映画音楽メドレー生演奏の後、安藤チェアマンによる開会宣言、出席された作品ゲストの登壇・披露、梶山経済産業大臣のビデオメッセージによる祝辞、海外ゲストからの応援ビデオメッセージを披露し、その後、フェスティバルアンバサダー役所広司氏によるご挨拶、各部門紹介の後、Japan Now 深田晃司監督特集上映のゲストの挨拶、最後にオープニング作品である「アンダードッグ」ゲストのオンライン参加も活用した挨拶が行われた後、休憩をはさみ、本編(前後編)の上映となった。

クロージングセレモニーは、11月9日（月）にTOHO シネマズ六本木ヒルズスクリーン7で開催された。コンペティティブ部門のない本年は観客賞のみの贈賞となったが、通常、グランプリ作品に与えている都知事賞を観客賞受賞作品にお渡しする形となった。

観客賞は、TOKYO プレミア 2020 部門作品 32 作品より観客投票により選出され、「わたしをくいとめて」（大九明子監督）が受賞。大九明子監督、及び、主演ののんさんが登壇し、受賞の喜びをコメントした。

その後、クロージング作品「HOKUSAI」のゲストが登壇し、挨拶いただいた後、安藤チェアマンより閉会宣言がなされ、休憩の後本編の上映となった。会期中も感染者が出ることなく、また、大きなトラブルもなく、無事、閉会を迎えることが出来た。

## [自主企画]

### （1）TOKYO プレミア 2020 （共催：東京都）

今年は、従来、行っていたコンペティティブな3部門（コンペティション部門、アジアの未来部門、日本映画スプラッシュ部門）の実施が審査員の来日招聘が不可能であるという判断のもと、断念をした。但し、従来同様の選定基準に照らし合わせた作品群を選定し、この年限りの3部門統合の新設部門 TOKYO プレミア 2020 部門とした。

選定基準は従来通り、本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に、2020年1月以降に完成した長編作品を世界各国から公募し、予備審査の後、今年より新たに作品選定コミッティー制を導入、32作品が選定された。各作品の上映時に招聘したゲストによるQ&Aを万全な新型コロナウイルス対策と共に実施した。また、来日できなかったゲストについては、劇場上映とは切り離れた形で別日時にセットしたオンラインQ&Aを行い、いずれも観客との交流を深めることが出来た。

コンペティションの形での贈賞は叶わなかったが、従来からあった一般観客の投票による観客賞のみ実施され、港区から観客賞トロフィー、東京都より都知事賞トロフィーが贈賞され、賞金1万米ドルが1作品に贈られた。

・観客賞：『わたしをくいとめて』（監督：大九明子）

上映作品数 32 作品 動員数 15,909 人

### （2）特別招待作品

国内未公開の主な話題作品を厳選し、上映。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭のPRと観客動員に貢献した。

上映作品数 17 作品 動員数 6,831 人

### （3）特別上映

国内未公開の話題作品を選定、上映。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭のPRと観客動員に貢献した。

上映作品数 2 作品 動員数 260 人

#### (4) ワールド・フォーカス

世界の国際映画祭で話題になった作品、製作国で大ヒットしている作品、注目監督の新作等を取り上げ、8月末時点で日本の公開が未定である作品を多数紹介。当映画祭での上映をきっかけに国内公開が決まったケースも多い。今年は第17回ラテンビート映画祭 IN TIFF、台湾電影ルネッサンス 2020 という2つのミニ特集も含め、世界で話題になっている数々の新作を紹介した。

上映作品数 20 作品 動員数 8,786 人

#### (5) ジャパニーズ・アニメーション

今年より、新たに藤津亮太氏をプログラミングアドバイザーに起用。「『劇場版ポケットモンスター』の世界」として3作品、「2020年、アニメが描く風景」として3作品、「かわいいともだち」として2作品、「『秘密戦隊ゴレンジャー』生誕45周年記念スーパー戦隊シリーズの歩み」として3プログラム5作品を上映。

上映作品数 13 作品 動員数 1,483 人

#### (6) Japan Now 気鋭の表現者 深田晃司

日本映画の今を俯瞰する本部門。今年は、深田晃司監督を特集。初期作品から最新作まで、短編・長編併せて計9作品を上映。上映時は、連日、監督ご本人の登壇によるQ&Aが行われ、大変好評を博した。

上映作品数 9 作品 動員数 528 人

#### (7) 日本映画クラシックス

日本の名作のデジタル修復版を上映する部門。国際交流基金の協力のもと修復された天才・山中貞雄の現存する3作品、そして、巨匠・稲垣浩の不朽の名作「無法松の一生」を上映

上映作品数 5 作品 動員数 1,079 人

#### (8) ユース

日本の若い映画ファンの創出、映画クリエイターの育成を目的とした部門。小学生までが対象の「TIFF チルドレン」では、3年目になる山崎バニラ氏による活弁イベント「山崎バニラの活弁小絵巻 2020」他1プログラムを上映。中高生が対象の「TIFF ティーンズ」では3プログラムを上映。また、「TIFF ティーンズ映画教室 2020」では、コロナ禍の中、初のオンラインワークショップの形を取った。今年は三宅唱監督を講師に迎え、4チーム計25名の中学生の参加を得たが、オンラインの形態をうまく活用、国内遠隔地或いは海外からの参加も得ることが出来、大変、意義深い取り組みとなった。

上映作品数 10 本 動員数 1,634 人

#### (9) 国際交流基金アジアセンター×東京国際映画祭」co-present

##### トークシリーズ「アジア交流ラウンジ」

アジア各国・地域を代表する映画監督と、第一線で活躍する日本の映画人とのオンライン・トークを期間中8日間配信。アジアの映画人同士が語り合い、また世界中からの質問も受け付け、

大いに盛り上がりを見せた。

企画数 8 企画 オンライン視聴者数 3,477 人

#### (10) TIFF マスタークラス

ジャパニーズ・アニメーション部門で焦点を当てた、「2020 年、アニメが描く風景」「ジャパニーズ・アニメーションの立脚点 キャラクターと映画」「スーパー戦隊シリーズの歩み」という 3 つのテーマについて、それぞれ有名監督や評論家を招き語り合い、その模様をオンライン配信（一部はリアルでも開催。配信は一部英語版も用意）にて公開した。

企画数 3 企画 リアル動員数 132 人 オンライン視聴者数 32,894 人

#### (11) TIFF トークサロン

来日招聘できない海外の作品ゲストにオンラインにて参加いただき、公開の形で Q&A を行った。長めの時間を取る事で、従来の登壇しての Q&A よりも数多くの質問に答えていただくことが出来、大変、良い企画になった。

企画数 38 企画 オンライン視聴者数 45,642 人

#### (12) 上映作品の舞台挨拶のオンライン配信

上映時のリアル登壇挨拶も同時に配信・アーカイブの形を取った。従来は、映画を鑑賞した方しか見ることのできない模様を幅広く鑑賞いただくことが出来た。

企画数 19 企画 オンライン視聴者数 56,023 人

#### (13) 復活！新作映画イッキに見せます！ in 東京国際映画祭

第 25 回、第 26 回に実施した同企画の復活実施。フリーアナウンサーの笠井信輔氏を起用、今後公開される新作映画の予告編をリアルな上映会場と配信環境で上映した。

リアル動員数 108 人 オンライン視聴者数 1,778 人

#### (14) 東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場 屋外上映イベント

東京ミッドタウン日比谷の日比谷ステップ広場に高精細の LED パネルを用いた屋外上映スクリーンを設置。連日、上映会を行った。

10 月 31 日(土)日比谷会場オープニングスペシャル「神在月のこども」スタートアップイベント

11 月 1 日(日)～ 8 日(日) 第 33 回東京国際映画祭@日比谷会場屋外上映会

11 月 1 日(日)、3 日(火)、8 日(日)「秘密戦隊ゴレンジャー」生誕 45 周年記念スーパー戦隊フェスティバル in TIFF

上映作品数 21 作品 動員数：3,587 人

#### (15) 「秘密戦隊ゴレンジャー」生誕 45 周年記念スーパー戦隊フェスティバル in TIFF トークイベント

日比谷ステップ広場での上映企画のゲストがオンライン上で集結。本年度映画祭の最大動員数を獲得する企画となった。

企画数 4 企画 オンライン視聴者数 834,931 人

#### (16) We Are One : A Global Film Festival への参加

カンヌやベルリンなど 20 以上の世界の映画祭と YouTube が実施するオンライン映画祭「We Are One : A Global Film Festival」が 2020 年 5 月 29 日～5 月 7 日まで YouTube.com/WeAreOne にて開催された。長編、短編、ドキュメンタリー、トーク番組などが公開され、すべて無料で視聴可能。東京国際映画祭からは、長編 2 作、短編 4 作品が出品された。特に深田晃司監督の短編『ヤルタ会談オンライン』はワールドプレミアされ、話題を呼んだ。また、このサイト上から世界保健機関（WHO）やコロナ感染の救援活動を行う団体への寄付も行う事が出来る仕組みになっており、それら機関の活動に貢献することが出来た。

#### [共催・提携企画]

##### (1) 第 17 回文化庁映画週間

###### ①令和 2 年度文化庁映画賞贈賞式

優れた文化記録映画に賞を贈呈すると共に、日本映画を支えてきた功労者を顕彰。

会期：11 月 6 日（金） 会場：六本木アカデミーヒルズ タワーホール

###### ②令和 2 年度文化庁映画賞受賞記念上映会

文化庁映画賞を受賞した 3 作品を上映すると共に、各作品の監督を招き Q&A を行った。

会期：11 月 8 日（日） 会場：神楽座

###### ②第 17 回文化庁映画週間 シンポジウム

「コロナ禍を経てこれからの映画製作」をテーマに、監督やプロデューサーより、映画製作の現場についての状況報告を行ってもらった。

会期：11 月 5 日（木） 会場：六本木アカデミーヒルズタワーホール

上映作品数 3 作品 リアル総動員数 223 人 シンポジウム・オンライン視聴者数 90 人

##### (2) 特別提携企画 「PFF アワード 2020」グランプリ受賞作品上映 11 月 3 日（火）

PFF アワード 2020 グランプリ作品『へんしんっ！』を上映。上映後、Q&A を実施。

上映作品数 1 作品 動員数 55 人

##### (3) 「SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2020」受賞作品上映 11 月 6 日（金）

SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2020 の SKIP シティアワード受賞作品『写真の女』を上映。上映後、Q&A を実施。

上映作品数 1 作品 動員数 66 人

##### (4) 日本映画監督協会新人賞、上映とシンポジウム 11 月 2 日（月）

照屋年之監督作品『洗骨』の上映に続き、照屋監督と中村義洋監督との対談を行った。

上映作品数 1 作品 動員数 44 人

##### (5) 日本映画監督協会第 60 回新人賞上映記念シンポジウム 11 月 2 日（月）

監督協会新人賞の上映・シンポジウム後、同日、オンラインにて、照屋監督、中村監督、本木克英監督、大森立嗣監督、入江悠監督、矢田部シニアプログラマーによるシンポジウムを行った。

企画数 1企画 オンライン視聴者数 1,782人

**(6) みなとシネマフェスティバル** 10月24日(土)～11月28日(土)

第32回東京国際映画祭の特別上映作品「カツベン！」のバリアフリー上映などを実施。  
会場：TOHO シネマズ六本木ヒルズ、赤坂区民センター区民ホール、リーブラホール  
上映作品 7作品 動員数 683人

**(7) BS10 スターチャンネルアカデミー「映画級ドラマ！HBO コンテンツの神髄」**11月2日(月)  
万物評論家・丸屋九兵衛を迎え、大ヒットドラマ・映画を次々と生み出すHBOの魅力と神髄をテーマにトークイベントを行った。

会場：六本木アカデミーヒルズ タワーホール オンライン視聴者数 1,006人

**(8) MPAセミナー** 11月4日(水)

映画産業成長の鍵であるデジタル配信と、その保護施策を国内外の研究者が討議した。  
会場：六本木アカデミーヒルズ オーディトリウム 動員数 33人 オンライン視聴者数 946人

**(9) 第21回東京フィルメックス**

10月30日(金)～11月7日(土)、11月22日(日)、11月26日(木)～28日(土)  
オンライン上映：11月22日(日)～12月6日(日)  
9日間で47回上映、会期後に4回特別上映を行い、作り手とのQ&Aを、リモートも含めて18回行った。  
会場：TOHO シネマズシャンテ、有楽町朝日ホール他  
上映作品数 30作品 動員数 7,890人 オンライン視聴者数 2,314人

**(10) 京都フィルムメーカーズラボ** 11月3日(火)～11月8日(日)

選抜された国内外の若手映像作家を対象に、TIFF スタッフ等を講師に迎え9講座を開催。  
動員数 416人 オンライン視聴者数 100人  
会場：松竹撮影所、京都文化博物館、東映京都撮影所ほか

**(11) NPO 法人独立映画鍋×第21回東京フィルメックス×第33回東京国際映画祭「インディペンデント映画の未来と映画祭」** 11月3日(火)

国内外の映画祭関係者と監督たちが映画祭の意義とコロナ禍での開催について語り合った。  
オンライン視聴者数 234人

**(12) MPTE AWARDS 2020 第73回表彰式** 11月2日(月)

映像制作現場の技術者を表彰する日本で唯一の賞「MPTE AWARDS」各賞の授与が行われた。

会場：六本木アカデミーヒルズ オーディトリウム 動員数 69 人

(13) 映文連 国際短編映像祭 映文連アワード2020 11月18日(水)～11月20日(金)

受賞32作品を8つのプログラムに分けて上映。監督等を迎えてのトークは盛況であった。

会場：国立新美術館講堂(表彰式)、ユーロライブ(上映会) 上映作品数 48 作品 動員数 500 人

(14) 第42回ぴあフィルムフェスティバル 9月12日(土)～9月26日(土)

「PFF アワード2020」、石井裕也監督「生きちゃった」、スカラシップ「猫と塩、または砂糖」等を上映

場所：国立映画アーカイブ 上映作品数 33 作品 動員数 2,787 人 オンライン視聴者数 2,153 人

(15) SKIP シティ国際Dシネマ映画祭2020 9月26日(土)～10月4日(日)

今年で17回目となる本映画祭を今年はオンラインで開催

上映作品数 24 作品 オンライン視聴者数 8,142 人

(16) ショートショートフィルムフェスティバル & アジア2020 秋の映画祭

10月15日(木)～18日(日)

2020年受賞作品の上映・配信と、今泉力哉監督のクリエイターズセミナーを開催。

会場：東京都写真美術館ホール 上映作品 50 作品 動員数 652 人 オンライン視聴者数 14,984 人

(17) オンライン「コリアン・シネマ・ウィーク2020」 11月1日(日)～11月7日(土)

日本未公開作品を含む最新韓国映画7作品や監督のビデオメッセージなどをオンライン上映。

上映作品 7 作品 オンライン視聴者数 3,378 人

(18) 2020 東京・中国映画週間 10月27日(火)～11月1日(日)

日中映画祭の「ゴールドクレイン賞」も5回目を迎えた。 場所：TOHO シネマズ日本橋ほか

上映作品 12 作品 動員数 2,150 人 オンライン視聴者数 3,950 人

(19) 第14回田辺・弁慶映画祭 11月13日(金)～11月15日(日)

コンペティション作品8作品を上映 オンライン視聴者数 2,644 人

(20) ポーランド映画祭2020 11月20日(金)～26日(木)

会場：東京都写真美術館ホール 上映作品 7 作品 動員数 919 人

(21) 第17回ラテンビート映画祭 11月19日(木)～12月13日(日)

スペイン大使館で2つの美術展を同時開催し、スペイン・キューバ・日本のコラボを実現

上映作品 10 作品 動員数 140 人 オンライン視聴者数 2,564 人

(22) サヤマ de シネマ vol.4 9月19日(土)～20日(日)

第4回の今年は大森立嗣監督をゲストに迎えトークセッションを開催。

会場：狭山市市民会館小ホール 上映作品 2作品 動員数 294人

### 【顕彰・助成】

新型コロナウイルスの流行により、海外審査委員の招聘が困難なため、コンペティション形式を今年に限って取り止めた。その結果、コンペティティブ3部門の統合部門である「TOKYO プレミア 2020」部門における観客賞のみ顕彰。

### 【運営】

#### ①自主企画の実施

先述の通り

#### ②上映会場、各種会場

六本木地区、及び、日比谷地区をメイン会場とした。

・主要上映会場：

TOHO シネマズ六本木ヒルズ（9スクリーン）EXシアター六本木（1スクリーン）

東京国際フォーラムホールC

・その他の会場（提携企画等を上映、実施）：

東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場、神楽座ほか

・また、上映会場以外の会場として以下を使用した。

「森タワー」：映画祭事務局、プレスセンター、記者会見場、各種取材部屋、各種セミナー会場、レセプション会場

「六本木ヒルズ 大屋根プラザ」：チケットブース、インフォメーションブース等で使用

「ヒルズカフェ」：通常利用

#### ③ 入場料金

○オープニング「アンダードッグ」 一般：3,000円 学生前売・当日：2,100円

○クロージング「HOKUSAI」 一般：2,600円 学生前売・当日：2,100円

○TOKYO プレミア 2020 一般：1,600円 学生前売：1,100円 学生当日：500円

○特別招待作品、特別上映 一般：1,900円 学生前売：1,500円 学生当日：500円

○ワールド・フォーカス 一般：1,600円 学生前売：1,100円 学生当日：500円

○ジャパニーズ・アニメーション（「サイダー」「ヴァイオレット」）

一般：1,900円 学生前売：1,500円 学生当日：500円

○ジャパニーズ・アニメーション（「すみっこぐらし」「どすこいすしずもう」）

一般：1,400円 学生前売：500円 学生当日：500円

○ジャパニーズ・アニメーション（上記作品以外）

一般：1,400円 学生前売：1,100円 学生当日：500円

○JAPAN NOW（「本気のしるし」） 一般：2,300円 学生前売：1,800円 学生当日：1,800円

○JAPAN NOW（上記以外の作品）	一般：1,400円	学生前売：1,100円	学生当日：500円
○日本映画クラシックス	一般：1,400円	学生前売：1,100円	学生当日：500円
○ユース	一般：1,500円	学生前売：500円	学生当日：500円
○その他企画上映	一般：1,400円	学生前売：1,100円	学生当日：500円

#### ④会期中のイベント

##### 【大屋根プラザ】

映画祭期間中、一般来場者の寛ぎスペース、プレス関係者の利用スペースとして演出。中央にテーブルを配し、防寒対策でストーブを設置。プレスインフォメーション、インフォメーションブース、チケットブース、キッチンカーも設置。

#### ⑤ボランティア、インターン・スタッフの採用

TIFFのWEBサイト上で募集したボランティア・スタッフの方々に、上映会場での案内や事務局業務のサポートなど様々なところで活躍してもらった。また、大学や専門学校の協力のもとに学生をインターンで映画祭に参加してもらう試みも実施した。

#### ⑥オリジナル・グッズの販売

TIFF オフィシャルグッズとして、公式プログラム、公式バッグを販売した。

#### ⑦クラウドファンディング

本年度もクラウドファンディングを通じ「東京国際映画祭サポーター」を募集した。値段設定や特典（オープニングセレモニー入場券等をうまく活用）の工夫を行い、一定程度の参加者を得た。

### 【広報活動】

#### 1. メディア登録者数

国内メディア：1,080名 海外メディア 620名

パス発行、プレスセンター運営、会期中のマスコミ対応はすべてバイリンガル対応を実施

#### 2. 国内宣伝パブリシティ

露出数：11,380（12月10日時点）

TV 媒体広告換算値：13億8271万8782円

WEB 媒体広告換算値：80億9035万8151円

コロナの影響で媒体を限定せざるをえなかったことや例年のメインイベントであるレッドカーペットを縮小したため露出は大幅に減少したが、コロナ禍の中でのハイブリッド開催に関しては新聞媒体含め多くの媒体から高評価を頂き次年度への期待に繋がった。

#### 3. 海外宣伝パブリシティ 露出数：4,906

来日する海外記者がおらず、また駐日の記者も米国選挙と重なり取材数が減ったが、オンラインイベントやリモート取材が可能となり、来日がかなわない記者への積極的フォローにより、通信社や業界誌の取り込み施策で比較的露出が確保できた。

#### 4. 記者会見

○ラインナップ発表会見 2020年9月29日 六本木アカデミーヒルズ 49階 タワーホール

○FCCJ（外国人特派員協会）会見 2020年10月19日

○受賞者記者会見（観客賞） 2020年11月9日 TOHO シネマズ劇場内

5. 国内宣伝広告 ・ ・ ・ ・ J-wave 各種番組出演・告知、LINE LIVE 中継、Filmarks 特集・バナー広告、Movie Walker 特集・バナー広告、U-NEXT 特集・バナー広告

6. 海外宣伝広告 ・ ・ The Wall Street Journal、The Japan Times/ The New York Times Variety、Screen International、The Hollywood Reporter、Chinese Film Market 他

7. 海外プレス招聘 ・ ・ なし（招へい予定媒体には優先的にオンラインスクリーナーの提供など、積極的な情報提供や取材環境の醸成を実施）。

#### 8. 宣材物

予告編 ・ ・ ・ ・ ・ 2020年9月25日より首都圏各劇場にて上映

メインビジュアル ・ ・ 2017年から引き続き、蜷川実花氏の写真を採用

紙媒体 ・ ・ ・ ・ ・ プログラム、映画祭ガイド、公式記録はすべて日英表記にて作成

#### 9. 公式 WEB、SNS の展開

SNS 展開にはさらに力を入れ、YouTube の公式番組「TIFF Studio」（チャンネル登録者数2万人突破）で「TIFF トークサロン」として TOKYO プレミア 2020 部門の各ゲストとオンラインで対談し情報発信。媒体の特性に合わせて戦略的に国内外へと発信。

<各 SNS フォロワー数>

Twitter : 49,941 / Twitter (ENG) : 736 Facebook : 21,997

LINE : 29,431 Instagram : 7,620 YouTube : 21,500

10. Cyber TIFF ・ ・ 東京国際映画祭の動画配信プロジェクト。公式 WEB 及びモバイルサイトでの動画配信を通して、TIFF の最新情報を発信するとともに、オープニング、クロージングの様子はインターネットへの配信を実施した。また、撮影した素材は各マスコミに提供して東京国際映画祭の情報発信に寄与した。

（森ビル・六本木ヒルズおよび EX シアターでの広報活動）

会期前の10月17日（土）より最終日の11月9日（月）まで、六本木ヒルズ内の大型広告スペースにおいて、オープニング、クロージング作品の大型ビジュアル、映画祭ビジュアルやロゴ、また映画祭と各作品のポスター等を掲出、会場を華やかに盛り上げた。EX シアターでは、1F のデジタルサイネージで主な作品を紹介するなど情報の発信を行った。

- ① 地下鉄通路 地下鉄コンコースコルトン、地下鉄コンコースシート
- ② メトロハット 内周バナー、エスカレーター下コルトン、メトロハット・ビジョン
- ③ 大屋根プラザ 吊り下げバナー、台形柱シート、
- ④ TOHO シネマズ エントランスバナー
- ⑤ ヒルズカフェ カフェ前台形柱シート
- ⑥ 館内既設ボード ポスター掲出
- ⑦ EX シアター 1F デジタルサイネージ

(日比谷地区での広報活動)

ミッドタウン日比谷での屋外大型 LED ビジョンの裏面を華やかでインパクトのある映画祭ビジュアルで装飾し、会場の賑わいを演出した。同様のビジュアルをストリートバナーでも展開した。

(東京都交通媒体での広報活動)

東京都交通局のご協力のもと、10月2日(金)から11月9日(月)までの長期間に渡り、都営地下鉄および都営バスと映画祭とのタイアップキャンペーンの告知を行った。

- ① 都営地下鉄全駅 構内ポスター掲出 145 枚
- ② 都営地下鉄 中吊り掲出 3,116 枚
- ③ 都営地下鉄全駅 チラシ設置 11,000 枚
- ④ 都バス窓上広告掲出 (都営地下鉄中吊り枚数に含む)
- ⑤ 都バス全車内 チラシ設置 15,000 枚
- ⑥ 東京都媒体での告知記事掲載・バスマガジン(9月号)、ふれあいの窓(10月号)、沿線ガイドぴっくあっぷ(10月号)

#### [東京国際映画祭地区委員会の活動]

「みなと委員会」・・・港区、麻布警察署、麻布消防署、東京地下鉄株式会社、東京商工会議所、森ビル株式会社、六本木ヒルズ自治会、港区内の各町会、商店街連合会で結成された東京国際映画祭を支援する委員会である。第33回の開催においても、会期前から会期中を通じて会場周辺や港区内の各所で東京国際映画祭を盛り上げる様々な活動を展開した。

#### ○プレイベント上映会

区民を対象とした第32回受賞作品等の上映会を開催

2020年10月24日(土)

赤坂区民センター区民ホール(入場者数 251名)

#### ○みなと上映会

バリアフリー字幕付、音声ガイドの端末貸出を行い上映会を開催

2020年10月31日(土)

TOHO シネマズ六本木ヒルズ(入場者数 197名)

#### ○観客賞

観客の投票によって選ぶコンペ作品への賞(賞金1万米ドル)

贈賞 2020年11月9日(月)

受賞作品上映会 2020年11月9日(月)

TOHO シネマズ 六本木ヒルズ スクリーン7(入場者数 101名)

受賞作品『私をくいとめて』

登壇者 大九明子(監督)、のん(主演)

#### ○街頭フラッグの掲出

けやき坂、麻布十番商店街、六本木商店街、材木町商店会にて合計230枚

2020年10月17日(土)~11月9日(月)

映画祭のメインビジュアルバナーのフラッグをリユースし

トートバッグを制作。六本木ヒルズのアートショップや港区役所で販売。

○ みなとクリーンアップ

みなとクリーンアップは新型コロナウイルス感染防止対策に伴い、みなと委員会、六本木自治会、Kiss ポート財団で協議し、中止の判断となる。

○ みなと区民まつり

2020年10月3日（土）10月4日（日）に開催予定だった「みなと区民まつり」は新型コロナウイルス感染防止対策のため中止となる。

○ 告知記事掲載

港区のKiss ポート誌9月号にプレイベント募集、みなと上映会、観客賞募集記事を掲載し、港区内の全戸に新聞折込配布した他、主要駅、公共施設で合計15万枚を配布した。

## 2. TIFFCOM 開催事業

### 「TIFFCOM2020」の製作運営

#### ■ TIFFCOM 2020 催概要

- ① 主催： 経済産業省／総務省／特定非営利活動法人映画産業振興機構／公益財団法人ユニジャパン
- ② 共催： 第33回東京国際映画祭
- ③ 日程： 令和2年11月4日（水）～11月6日（金）  
オンラインスクリーニングは10月31日（土）～11月9日（月）まで視聴可能  
オンラインセミナーは実施日翌日から11月9日（月）までアーカイブ配信
- ④ 会場： オンラインでの開催

#### ■ TIFFCOM 2020 成果報告

TIFFCOM2020は、従前の経済産業省に加え、新たに総務省の支援を受けることで規模を拡大して実施する予定であったが、コロナ禍の状況の中、TIFFCOMとしては初めてのフル・オンラインでの開催となった。オンライン見本市でのノウハウもなく、実施事例も少ない中試行錯誤しながらの実施となったが、システム障害等大きなトラブルはなく無事終了できた。

250の出展団体が参加、出展者の国・地域数は28と過去最高を更新、登録バイヤー数467人、商談件数は1838件、成約金額は\$22,505,000となった。

#### 【オンラインマーケットで提供したサービス】

TIFFCOM2020参加者には4つのサービスを提供した

- オンラインブース

バーチャルブース（VR）を採用し、ストレスフリーでの各種コンテンツ情報や出展者情報がワンストップで入手できる環境を提供。

○オンラインビジネスマッチング

業種やカテゴリーによる詳細検索、登録情報に基づいたレコメンド検索機能といった出展者とバイヤーとの有益な商談機会につながる環境を提供。

○オンラインスクリーニング

セキュアな環境下（DRM）での出展者とバイヤーをつなぐオンラインスクリーニングサービスを提供。時間と空間に左右されることなく視聴が可能となり、オンラインの優位性が発揮できた。細かくカテゴリー分けされた検索機能を採用

○オンラインセミナー

映画、TV、配信といった各ジャンルの最新テーマや人物にスポットを当てた18プログラムを実施。キーノートには、ジム・ジアノプロス氏（パラマウント・ピクチャーズ会長兼CEO）が登壇。

[出展者の状況]

2020年度 出展団体数【 海外：143／国内：107 合計：250 】

国・地域別出展団体数

<b>アジア</b>	<b>101</b>	<b>日本</b>	<b>107</b>	<b>北米</b>	<b>7</b>
中国	35	<b>ヨーロッパ</b>	<b>19</b>	カナダ	1
香港	3	オーストリア ☆	1	アメリカ	6
インド	1	フランス	5	<b>中南米</b>	<b>12</b>
インドネシア	2	イタリア	2	ブラジル	11
韓国	38	モンテネグロ ☆	1	メキシコ	1
マレーシア	1	オランダ	1	<b>オセアニア</b>	<b>1</b>
フィリピン	1	ポーランド	1	ニュージーランド	1
シンガポール	2	ロシア	5	<b>中近東</b>	<b>2</b>
台湾	3	スペイン	3	イラン	1
タイ	14	<b>アフリカ</b>	<b>1</b>	トルコ	1
ベトナム	1	ウガンダ ☆	1		

※国・地域名の後の☆印の入っているオーストリア、モンテネグロ、ウガンダが初出展  
パビリオンは日本、ASEAN（5つの国・地域）、中国、韓国（2）、タイ、ロシア、  
ロケーションパビリオン（中南米、ヨーロッパ、オセアニア、アフリカ）の計8つが設置  
ロシアは初のパビリオン出展

[登録バイヤーの状況]

■ 2020年度 ： 467人

国・地域別来場バイヤー数

<b>アジア</b>	<b>224</b>	<b>ヨーロッパ</b>	<b>61</b>	<b>北米</b>	<b>34</b>
ブルネイ	1	チェコ	1	カナダ	2
カンボジア	2	エストニア	1	アメリカ	32
中国	35	フィンランド	2	<b>中南米</b>	<b>11</b>
香港	48	フランス	14	アルゼンチン	3
インド	1	ドイツ	17	ブラジル	3
インドネシア	6	アイルランド	1	メキシコ	3
韓国	41	イタリア	3	ペルー	2
マレーシア	8	ノルウェー	1	<b>オセアニア</b>	<b>1</b>
フィリピン	5	ロシア	6	オーストラリア	1
シンガポール	14	スペイン	8	<b>中近東</b>	<b>7</b>
台湾	48	スウェーデン	1	サウジアラビア	2
タイ	11	イギリス	6	トルコ	2
ベトナム	4			UAE	3
<b>日本</b>	<b>129</b>				

初のオンラインマーケットということで、2020年の実績をまずはベースとして、提供機能の向上等を図ることで、次年度以降の数字を伸ばしていきたい。

#### [TIFFCOM セミナーの状況]

##### 全 18 セミナーを開催。

オンラインでの開催のメリットを生かし、リアルだと参加が難しい登壇者（海外）にも参加してもらうことが可能となった結果、映画、TV、アニメ等多様なセミナーが実現

##### 開催内容

「主催者挨拶」

「TIFFCOM2020 KEYNOTE」 <ジム・ジアノプロス氏>

（パラマウント・ピクチャーズ会長兼 CEO）

「韓国のこれからを担うスター俳優と女優たちと新作のご紹介」

「日本から世界へ！新たな才能に出会える、オリジナリティ溢れる企画ピッチング」

「放送局と OTT 配信事業者の関係性のトレンドや両経路に求められる日本のコンテンツ」

「ロシア発のアニメ：アニメスタジオはどうビジネスを発展させ、新しいマーケットを切り開いていくのか」

「世界の映画産業はコロナ禍にどう立ち向かうのか？」

「TIFFCOM2020 スペシャル・ゲスト」 <ロバート・アーリー氏>

（アマゾン・ジャパン Prime Video 事業本部長）

「「アニメツーリズム協会」が目指すアニメツーリズムの今と未来」

「第 13 回日中韓文化コンテンツ産業フォーラム」

「世界に展開する講談社の IP 戦略」

「日本の放送局との共同企画開発・配給ビジネスについて成功例からのケーススタディ」

「ハリウッドにおけるニューノーマル：業界リーダーから見た将来の展望と施策」

- 「アニメ産業レポート 2020 に見るアニメ産業最前線」
- 「中国コンテンツ 中国海外映像作品著作権フォーラム」
- 「コロナ禍以降の ASEAN 諸国の映画製作」
- 「MPA/DHU/TIFFCOM マスタークラスセミナー&ピッチングコンテスト」
- 「日本の放送局×海外共同番組制作社の実績に見る共同制作成功のポイントと展望」

### [新たな取り組み：TOKYO GAP FINANCING MARKET (TGFM)]

TIFFCOM2020 から、実写、アニメ といったジャンルや映画、TV といったフォーマットを問わず、製作予算がある程度集まっている作品に対し、残りの資金調達のサポートを行うため、作品への投資を行う可能性のある人との作品プロデューサーとのマッチングを行うという TGFM を始めた。

世界各国から応募のあった 86 作品の中から 20 作品を選定し、TIFFCOM2020 の期間中に 180 を超えるビジネスマッチングを実施した。目に見える形での結果が出るにはかなりの期間を要するが、最終のファイナンス部分のサポートを TIFFCOM として実施することで映像業界から見て TIFFCOM が新たな価値を提供することができた。

## 3. 国際振興支援事業

### 【国際展開支援】

#### (1) 海外の国際映画祭・映画賞への出品支援（文化庁の委託事業）

海外映画祭に参加する日本映画の出品経費、映画製作者の渡航経費等を支援する。長編映画から短編映画、著名監督作品から新人監督・学生作品まで、アニメーション、ドキュメンタリー映画を含めて、海外の映画祭から招待されたあらゆる日本映画を支援対象としている。

#### ■ 令和2年度支援実績

##### 1. 支援内容と支援件数

(コード A) 指定映画祭等への出品・参加に対する支援（三大映画祭以外）

- ・外国語字幕制作および映画製作者の海外渡航への支援 申請件数 22 採択件数 21

(コード B) 三大映画祭長編メインコンペティション部門への支援

- ・カンヌ、ベネチア、ベルリン映画祭の長編コンペ部門参加への支援 採択件数 4

(コード C) 自主制作映画の海外映画祭等参加への支援

- ・外国語字幕制作および映画製作者の海外渡航への支援 申請件数 2 採択件数 2

##### 2. 選考

(A) 前期、中期、後期に分け、それぞれ選考委員会を開催し支援作品の選考を行った。

・前期（4月～7月）	申請件数	4	採択件数	4
・中期（8月～11月）	申請件数	18	採択件数	17
・後期（12月～3月）	申請件数	6	採択件数	6

(B) 選考委員会のメンバーは以下の5名に委嘱した。

- ・坂野 ゆか（川喜多記念映画文化財団）・新藤 次郎（日本映画製作者協会代表理事）
- ・華頂 尚隆（日本映画製作者連盟）・石坂 健治（日本映画大学教授）
- ・石飛 徳樹（朝日新聞社編集委員）

## (2) 日本映画・映像コンテンツの海外発信支援（文化庁の委託事業）

### ■ 主要映画見本市への「ジャパンプース」出展

海外の主要映画祭に日本映画の海外広報・セールス拠点「ジャパンプース」を出展、日本映画情報センターとして活用する他、ブーススペースを日本映画の海外販売を行う 事業者提供、日本映画の輸出や共同製作等の海外展開を支援している。

令和2年度は新型コロナウイルス蔓延の影響を受け、いずれの見本市もオンラインの開催となった。

#### 出展した映画祭

- (A) カンヌ国際映画祭マーケット（開催日程 令和2年6月22日～26日）公式出品作品 3本  
 ※映画祭は開催されなかったが、公式出品作品として「カンヌ2020レーベル」の発表のみが実施された
- (B) ベルリン国際映画祭マーケット（開催日程 令和3年3月1日～5日）公式出品作品 2本  
 ※業界紙 Screen International のタイアップとして、見本市期間中に日本の特集記事やプロモーション映像の配信等を行った  
 ※映画祭は2021年6月9日～20日を予定
- (D) 香港国際映画祭マーケット（開催日程 令和3年3月15日～15日）公式出品作品 22本  
 ※利用セールス会社 15社  
 ※グループパビリオンとして、総務省、日本民間放送連盟、ジェトロと協力し、「オールジャパン」体制で実施した。

## (3) 国際共同製作支援（経済産業省の委託事業）

### ■ 日中協定における取組機関としての事務業務

本年度も日中映画共同製作協定の取扱期間として委任を受けた。日中映画共同製作認定応募要項を策定して申請の受付を行い、文化庁の「国際共同製作への支援」との合同説明会を実施、認定申請の書類審査を継続して行ったが、年度中に該当する完成作品はなかった。

- ① 応募要項、応募様式の作成

② 申請予定者向けの説明会開催概要

「日中映画共同製作認定／国際共同製作映画支援 合同説明会」

日時：令和元年12月23日（水） 14：00～15：30

開催方法：オンライン会議システム

参加者： 110人

参加省庁：経済産業省、文化庁

③ 認定委員会開催

日時：令和2年11月18日（水） 16:00～17:00

開催方法：オンライン会議システム

参加者：有識者4名

参加省庁：経済産業省、文化庁、外務省

■ 国際共同製作認定の廃止に伴う経過措置

2019年度に暫定認定を受け本年度に制作を終えた1作品の最終認定業務を行った。

■ 更なる国際共同製作促進のための検討委員会

2018年に締結された日中協定を受け、更なる国際共同製作を推進することを目的に次なる協定締結を視野に入れ諸外国・地域の国内・域内作品への支援策や国際共同製作作品に対する優遇措置等について調査を行うとともに、業界関係者や有識者等を交えた検討委員会を実施した。

① 検討議題

- ・国際共同製作協定の締結を戦略的に進めるための考え方の共有
- ・国際共同製作を進める上での共通課題の把握
- ・国際共同製作を促進するうえで必要な取組、方策の検討

② 検討が示す方向性

- ・国際共同製作を推進する方策としての「協定締結」で、締結を目指すべき国の選定
- ・協定締結の戦略性などとも連動させた、国際共同製作に関する周辺施策の提示
- ・国際共同製作協定のモデルプランの共有

参加者：有識者 実写12名 アニメーション13名

参加省庁：経済産業省、外務省、総務省、文化庁、国際交流基金

■ 各国の映画支援政策調査

今後日本が映画製作協定を締結する可能性がある国を含む国際共同製作における支援が充実している10か国・地域の調査を行い、各国の国際共同製作システムのあり方、共同製作における支援制度とその内容をまとめた。

1. 市場規模
2. 規制、法制度
3. 映画産業支援

## 【 情報発信 】

### （１）海外向け日本映画データベース・Japanese Film Database (JFDB) の運営 （国際交流基金との共同事業）

主に 21 世紀の日本映画に関して、日本で唯一の日英バイリンガルのオンラインデータベースの運営を継続的に行っている。令和 2 年には日本国内で 1 週間以上劇場公開された作品を中心に、約 250 本を新規掲載し、JFDB アーカイブと題した一部のクラシック作品も含め、現在合計で 6,200 作品以上のデータを収めている。海外販売をサポートするため映画マーケットでのセールス作品に特化したページ”Market Look” や、年間の特筆すべき作品を特集したページも開設した。

### （２）海外向け日本映画・アニメ年鑑「Japanese Film」の発行と配布 （文化庁の委託事業）

海外における日本映画の上映促進を目的とし、主要映画祭・映像見本市にて配布するべく、令和 2 年に劇場公開された代表的な日本映画・劇場版アニメの紹介と、日本映画産業統計、日本映画概況を掲載した小冊子を作成した。

#### ■ Japanese Film 2020 の概要

- ① 配布数： 2,000 部（冊子）及びデジタル版
- ② 配布先： カンヌ、アヌシー、ベネチア、TIFFCOM（東京）の各映画祭、見本市開催時に配布の他、日本政府在外公館、国際交流基金海外事務所、駐日外国公館に送付
- ③ 掲載作品： 選考委員会により 80 作品を選出し、日本語・英語併記で紹介
- ④ 日本映画産業統計： 一般社団法人日本映画製作者連盟、一般社団法人外国映画輸入協会より協力を得て、各種統計情報を掲載

### （３）第 17 回 文化庁映画週間の実施（文化庁の委託事業）

我が国の映画芸術の向上とその発展に資するため、文化庁映画賞として優れた文化記録映画作品（文化記録映画部門）及び永年にわたり日本映画を支えてきた功労者（映画功労部門）に対する顕彰を行った。また、コロナ禍の製作における最新状況をテーマとしたシンポジウムを実施した。

#### 【令和 2 年度 文化庁映画賞】

##### 令和 2 年度 文化庁映画賞 文化記録映画部門 受賞作

[文化記録映画大賞] 『プリズン・サークル』 監督：坂上 香

[文化記録映画優秀賞] 『えんとこの歌 寝たきり歌人・遠藤滋』 監督：伊勢真一

[文化記録映画優秀賞] 『蟹の惑星』 監督：村上浩康

##### 令和 2 年度 文化庁映画賞 映画功労部門 受賞者

浦田 和治 映画録音

岡田 裕 映画プロデューサー  
御所園 久利 映画美術・装置  
小山 明子 アニメーション色彩設計  
佐川 和夫 特撮監督  
村越 義人 映画機材  
柳島 克巳 撮影監督  
山崎 裕 撮影監督・演出

●文化庁映画賞贈呈式

- ・会期・会場：令和2年11月6日 六本木アカデミーヒルズ タワーホール
- ・主催：文化庁

●文化庁映画賞 受賞記念上映会

- ・会期：令和2年11月8日（日）  
『えんとこの歌 寝たきり歌人・遠藤滋』 Q&A ゲスト：伊勢真一（監督）  
『蟹の惑星』 Q&A ゲスト：村上浩康（監督）  
『プリズン・サークル』 Q&A ゲスト：坂上香（監督） 若見ありさ（アニメーション監督）
- ・会場：神楽座
- ・主催：文化庁

●シンポジウム

- ・会期：令和2年11月5日（木）14時00分～
- ・会場：六本木アカデミーヒルズ 49 タワーホール
- ・主催：文化庁
- ・共催：公益財団法人ユニジャパン

「コロナ禍を経てこれからの映画製作」 モデレーター： 関口裕子

ゲスト： 清水崇（映画監督）  
紀伊宗之（プロデューサー）

「コロナ禍を経てこれからの映画製作 ロケーション篇」

ゲスト： 福島大輔（プロデューサー）  
渡辺由香里（せんだい・宮城フィルムコミッション）

## （2）令和元年度アジアにおける日本映画特集上映事業の実施（文化庁の委託事業）

日本の文化や社会を映す日本映画を特集上映で広報することにより、日本文化への理解や親しみの深化を図るとともに、日本映画のアジア諸国での上映機会を増加、もって我が国映画の発展に資する。渡航はなく、現地映画館での上映を実施、ビデオメッセージやオンラインのセミナーを活用し現地との交流を行った。 ※コロナ禍による延期のため事業名は元年度

「日本映画ウィーク 2021 in ホーチミン」

開催都市：ベトナム ホーチミンシティ

会 期：2021年1月16日(土)～22日(金)

会 場：BHD STAR BITECO、BHD STAR THAO DIEN、Maya Academy

主 催：文化庁

後 援：在ホーチミン日本国総領事館、在日ベトナム社会主義共和国大使館  
一般社団法人日本映画製作者連盟、ホーチミン日本商工会議所

運 営：公益財団法人ユニジャパン

運営協力：松竹株式会社、BHD STAR CINEPLEX、株式会社 AAB

●オープニングセレモニー

日時・会場： 2021年1月16日 BHD STAR THAO DIEN スクリーン3

主催者挨拶： 文化庁 出倉功一審議官

来賓挨拶： 在ホーチミン日本国総領事館 渡邊信裕総領事

イベントアンバサダー：ドン・ニー（歌手）、オン・カオ・タン（歌手）

●日本映画特集上映 各作品、監督や出演者によるビデオメッセージを上映した。

オープニング作品『午前0時、キスしにきてよ』監督：新城毅彦

『きみの鳥はうたえる』監督：三宅唱

『あまのがわ』監督：古新 舜

『HELLO WORLD』伊藤智彦（監督）

『劇場版ソードアート・オンライン オーディナル・スケール』監督：伊藤智彦

『近松物語』 監督：溝口健二

『万引き家族』監督：是枝裕和

『小さいうち』監督：山田洋次

『WE ARE LITTLE ZOMBIES』 監督：長久允

『ホットギミック ガールミーツボーイ』監督：山戸結希

『葬式の名人』 監督：樋口尚文

『パラレルワールド・ラブストーリー』監督：森 義隆

『蜜蜂と遠雷』監督：石川慶

『劇場霊』 監督：中田秀夫

『スマホを落としただけなのに』監督：中田秀夫

●交流イベント

①『近松物語』から見る溝口健二監督作品の魅力

日時・会場： 1月21日 BHD STAR BITECO

登壇者： 木下千花（京都大学 教授）、宮島正弘（撮影監督）

モデレーター： 石坂健治（東京国際映画祭 シニア・プログラマー）

② 日越の映画人が語る川端康成小説の魅力と映像化の誘惑

日時・会場： 1月16日 BHD STAR BITECO

登壇者： 樋口尚文（『葬式の名人』監督）

大野裕之（『葬式の名人』プロデューサー、脚本）

ファン・ダン・ジー（監督）

③ ガールズムービーになにを託すのか？ 日越の新鋭映画監督が語るこれからの映画製作

日時・会場： 1月17日 BHD STAR BITECO

登壇者： 山戸結希（『ホットギミック ガールミーツボーイ』監督）

ケイ・グエン（『サイゴン・クチュール』監督）

進行： 関口裕子（映画ジャーナリスト、ライター、編集者）

●マスタークラス

日時・会場： 1月22日 Maya Academy (MAAC Vietnam)

主催者挨拶： 文化庁 芸術文化調査官 戸田 桂

来賓挨拶： ファン・ダン・ジー（監督）

登壇者： 伊藤智彦（『HELLO WORLD』『劇場版ソードアート・オンライン』監督）

モデレーター： 数土直志（ジャーナリスト）

●来場者数 , 393人 ※コロナウィルス感染症対策のため人数制限あり

## 【人材育成】

### 「第42回 PFF」の共催（川喜多記念映画文化財団の補助事業）

公益財団法人川喜多記念映画文化財団の指定寄付を受けて、「第42回ぴあフィルムフェスティバル（PFF）」に共同主催として参画した。

#### ■開催概要

- ・会期：2020年9月12日（土）～26日（土）
- ・会場：国立映画アーカイブ
- ・主催：一般社団法人PFF、独立行政法人国立美術館 国立映画アーカイブ、公益財団法人川喜多記念映画文化財団、公益財団法人ユニジャパン

#### ■最終審査員

- ・大森立嗣（映画監督・俳優）・齊藤 工（俳優・映画監督）・樋口泰人（プロデューサー）
- ・平松 麻（画家）・古厩智之（映画監督）

#### ■受賞結果

- |                    |                 |           |
|--------------------|-----------------|-----------|
| ・グランプリ             | 『へんしんっ！』        | 監督：石田智哉   |
| ・準グランプリ            | 『屋根裏の巳巳己』       | 監督：寺西 涼   |
| ・審査員特別賞            | 『頭痛が痛い』         | 監督：守田悠人   |
|                    | 『MOTHERS』       | 監督：関 麻衣子  |
|                    | 『未亡人』           | 監督：野村陽介   |
| ・エンタテインメント賞（ホリプロ賞） | 『こちら放送室よりトム少佐へ』 | 監督：千阪拓也   |
| ・映画ファン賞（ぴあ映画生活賞）   | 『LUGINSKY』      | 監督：haiena |
| ・観客賞               | 『アスタースクールデイズ』   | 監督：稲田百音   |

#### ■東京国際映画祭での特別提携企画

- ・PFF アワード2020 受賞作品上映